

(19)日本国特許庁 (JP)

(12) 公開特許公報 (A)

(11)特許出願公開番号

特開平5-68608

(43)公開日 平成5年(1993)3月23日

(51)Int.Cl.⁵

A 47 B 77/00
77/10
// A 47 B 1/04

識別記号

序内整理番号
9134-3K
9134-3K
Z 2113-3K

F I

技術表示箇所

審査請求 未請求 請求項の数1(全3頁)

(21)出願番号

特願平3-231444

(71)出願人 000005821

松下電器産業株式会社

大阪府門真市大字門真1006番地

(22)出願日

平成3年(1991)9月11日

(72)発明者 桶田 益行

大阪府門真市大字門真1006番地 松下電器
産業株式会社内

(74)代理人 弁理士 小銀治 明 (外2名)

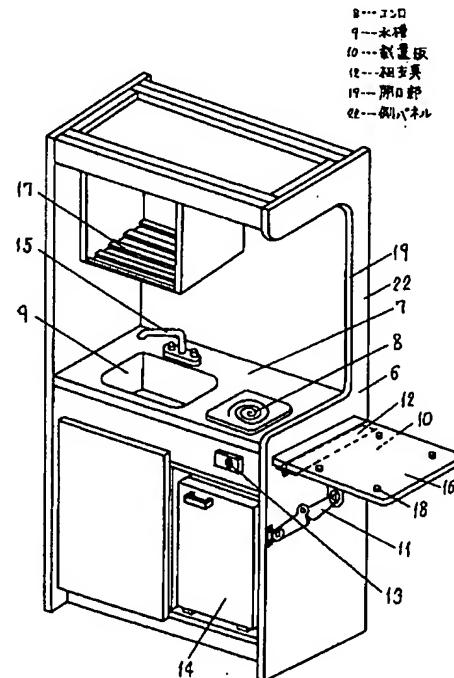
(54)【発明の名称】 廚房装置

(57)【要約】

【目的】 本発明は物品載置スペースを必要時のみ確保して使い勝手のよい厨房装置を提供することを目的とするものである。

【構成】 6は流し台であり、両側部に側パネル、後部に後パネルを設けている。流し台6のワークトップの表面には電気を熱源とするコンロ8と水槽9を形成し、側パネル22はコンロ8側の前部を大きくくり抜いたくり抜き開口19を形成している。10は可動載置板で側パネル22のくり抜き開口19の下端近くの外側に枢支具12とステー11により回動自在とし、耐熱性の載置板カバー16を取付金具18で取付ける構成になっている。

【効果】 載置板を回動させて水平状態にセットすれば、作業スペースの拡大が図れ、キッチン作業の効率化を図れるという効果を奏するものである。



1

2

【特許請求の範囲】

【請求項1】水槽とコンロを上面に配設した流し台の両側に側パネルの少なくとも一側パネルは前部を大きくくり抜いた開口部を形成し、この開口部の外側面には上部縁を枢支具により枢支して下端縁を上方に回動構成し、水平位置で一定支持される載置板を設けてなる厨房装置。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【産業上の利用分野】本発明は、流し台の両側に側パネルを配設した厨房装置に関するものである。

【0002】

【従来の技術】従来のこの種厨房装置は、例えばワンルームマンション、アパートなどの狭い部屋に設置する厨房装置は図6に示すようにワークトップ2の上に水槽4とコンロ3を配設した流し台1の両側に側パネル20を配設してなるものであった。

【0003】

【発明が解決しようとする課題】このような従来の構成では水槽4とコンロ3との間の調理や、仮保管スペース21が狭く使い勝手が悪いという課題があった。

【0004】本発明は、このような課題を解決しようとするもので、物品載置スペースを必要時ののみ確保して使い勝手のよい厨房装置を提供することを目的とするものである。

【0005】

【課題を解決するための手段】本発明の厨房装置は、水槽とコンロ上面に配設した流し台の両側に側パネルの少なくとも一側パネルは前部を大きくくり抜いた開口部を形成し、この開口部の外側面には上部縁を枢支具により枢支して下端縁を上方に回動構成し、水平位置で一定支持される載置板を設けたものである。

【0006】

【作用】本発明の厨房装置は、前部を大きくくり抜いた側パネルの側面に設けた載置板を上方に回転させて、水平状態に保持する構成にしておけば作業板として使用でき使い勝手が向上するとともに、不使用時には下方に回動することにより省スペース化がはかれ、邪魔とならないものである。

【0007】

【実施例】以下、本発明の一実施例について、図1～図5を参照しながら説明する。

【0008】図において、6は流し台であり、両側部に側パネル、後部に後パネルを設けている。流し台6のワークトップの表面には電気を熱源とするコンロ8と水槽9を形成し、側パネル22はコンロ8側の前部を大きく

くり抜いたくり抜き開口19を形成している。10は可動載置板で側パネル22のくり抜き開口19の下端近くの外側に枢支具12とステー11により回動自在とし、耐熱性の載置板カバー16を取付金具18で取付ける構成になっている。取付金具18は載置板を回動させる時のつまみにもなる。14は冷蔵庫、15は水栓である。

【0009】上記構成において調理する場合は図3に示すように、取付金具18をもって載置板10を上にあげた状態に固定すれば、載置板10の上に鍋を置いたり、あるいは作業板として使用できる。また側パネル22は前部を大きくくり抜いたくり抜き開口19を形成しているので、水槽9、コンロ8、載置板10、間において連続作業ができる、使い勝手がよいものである。

【0010】使用後は、図3に示す如く矢印方向に指で力を加えれば載置板は図4のような状態になり、部屋を広く使用することができる。

【0011】また図5に示す如く載置板カバー16の汚れ、損傷時は取付金具18を回転させて外し、載置板カバーを交換することも出来し、また洗浄することも出来る。

【0012】なお、載置板にインサート23を埋め込み、取付金具18で載置板カバー16を取付けているので強固に取付けることが出来るし、また耐久性もある。

【0013】

【発明の効果】以上の実施例の説明により明らかにように、本発明によれば、載置板を回動させて水平状態にセットすれば、作業スペースの拡大が図れ、しかも一側パネルの削部を大きくくり抜いた開口部としているので、使い勝手が向上し、キッチン作業の効率化を図れるという効果を奏するものである。

【図面の簡単な説明】

【図1】本発明の一実施例を示す厨房装置の外観斜視図

【図2】同厨房装置の載置板をたたんだ状態を示す外観斜視図

【図3】同ステータが開いた状態を示す正面図

【図4】同ステータが閉じた状態を示す正面図

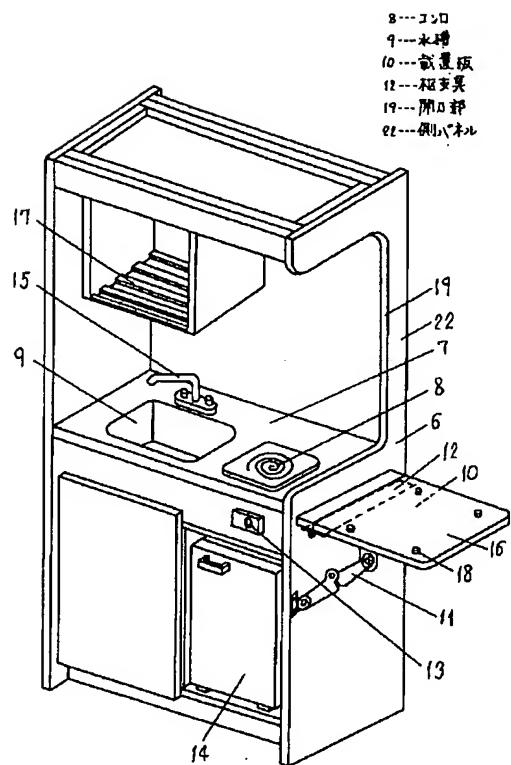
【図5】同載置板の詳細を示す断面図

【図6】従来例を示す外観斜視図

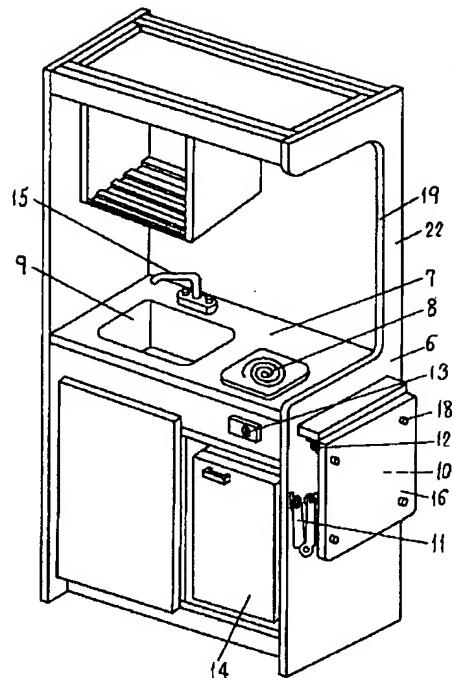
【符号の説明】

40	8 コンロ
	9 水槽
	10 載置板
	12 枢支具
	19 開口部
	22 側パネル

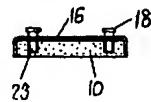
【図1】



【図2】

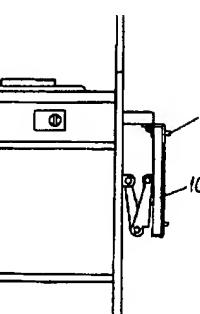


【図5】



【図6】

【図4】



【図3】

